

精神発達指導と母子相互作用仮説

小嶋謙四郎(早稲田大学文学部)

1. 母子相互作用の基本的特質は、つぎの4点に要約することができる。
 - a. それは、システムである。しかも、母の不在時においても、母の機能が作用しつづけている。これは一般的システムのアナロジでは理解がむずかしい。ヒトや、ヒトに近い生物にみとめられる認知・情動的システムである。
 - b. リズムである。母と子の認知・情動的経験は、みつめあいのサイクルや、語りかけと新生児の体動のエントレインメント、対話に似たサッキングリズムなど、社会的相互作用的リズムによって構造化されている。
 - c. 母子システムは、より大きい社会的システムにくみこまれている。父親の経済的、情動的サポートの有無、母の社会的地位と役割の変動によるストレス、就労と母性意識とのコンフリクトは、母子システムの安定性に影響する。
 - d. 安定した母子システムは、乳児期のこどもの心の健康な発達の基礎である。安定したアタッチメント関係を発達させたこどもは、環境探索、課題解決、社会的親和、自立と協力、などのコンピテンスの発達が指摘されている。

こどもの心の発達指導の原則は、この4点にしたがって行うことがのぞましい。

2. 母の就労は、システムの安定性を脅かす要因であり、発達指導の重要な問題である。

母の就労が、こどもの心の発達にあたる問題は、1)母性意識、とくに自己の手で育てたい。ひとにこどもの保育を任せられない。という感

情と、仕事をやめられないこととのコンフリクトによる「母親としての満足感」の低下、2)家庭外保育の経験、が、こどもの心の発達にどう影響するかということである。

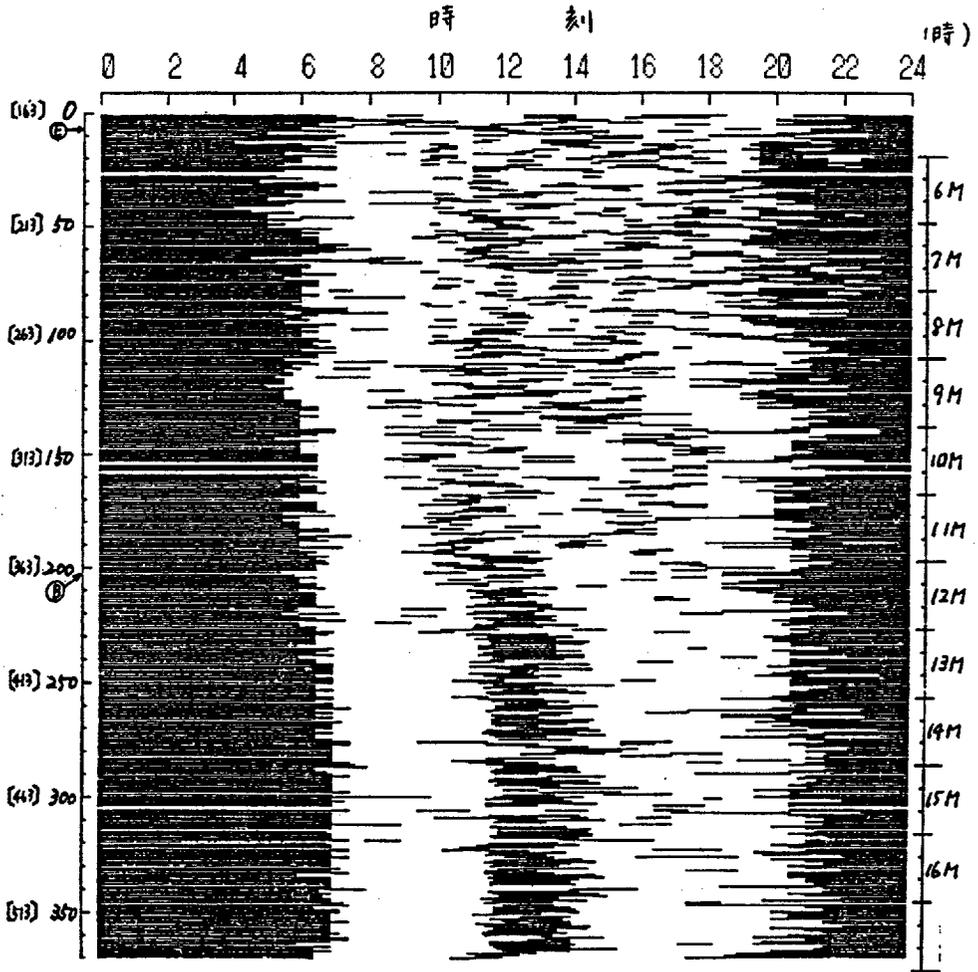
従来の研究によれば、2歳児のこどもへの影響は、EM(就労)のこどもは、NEMのこどもが、おとなに進んで会話をもとめるのに対して、なかまに、より積極的に接近することが多く、それが知的発達にも関係し、NEMのこどもが、IQ平均がより高いとされている。また、見知らぬひとへの恐れや抵抗も、EMのこどもは、より示さない。(Schachter, F.F., 1981)

家庭外保育が母子のアタッチメント関係の発達にあたる効果については、まだ定説がない(J. Belsky & L. D. Steinberg, 1978)。最近の研究によれば、こどもの家庭における親との関係の安定性が、保育施設の保母との関係に影響し、こどもの家庭外保育の体験が、家庭の親子関係に作用するとされ、両者の相互作用の視点が必要とされている(C. W. Anderson et al. 1981)。

われわれの保育園3歳児調査の所見は、つぎのとおりである。

- a. 保育園の生活は、ねむり/めざめの24時間リズムの発達に貢献していることが予想される。(図1)
- b. 入所月令が平均より早いこどもの行動特性は、依存/攻撃タイプ、遅い項目に逃避/多動・自閉タイプが、それぞれ関連している。(表1)

今後にのこされたことは、調査の対象児の年齢を乳児期にさげ、母子システムと保母-子システムの連関を検討することである。



RS の睡眠・覚醒リズム

day-by-day plot 法による。

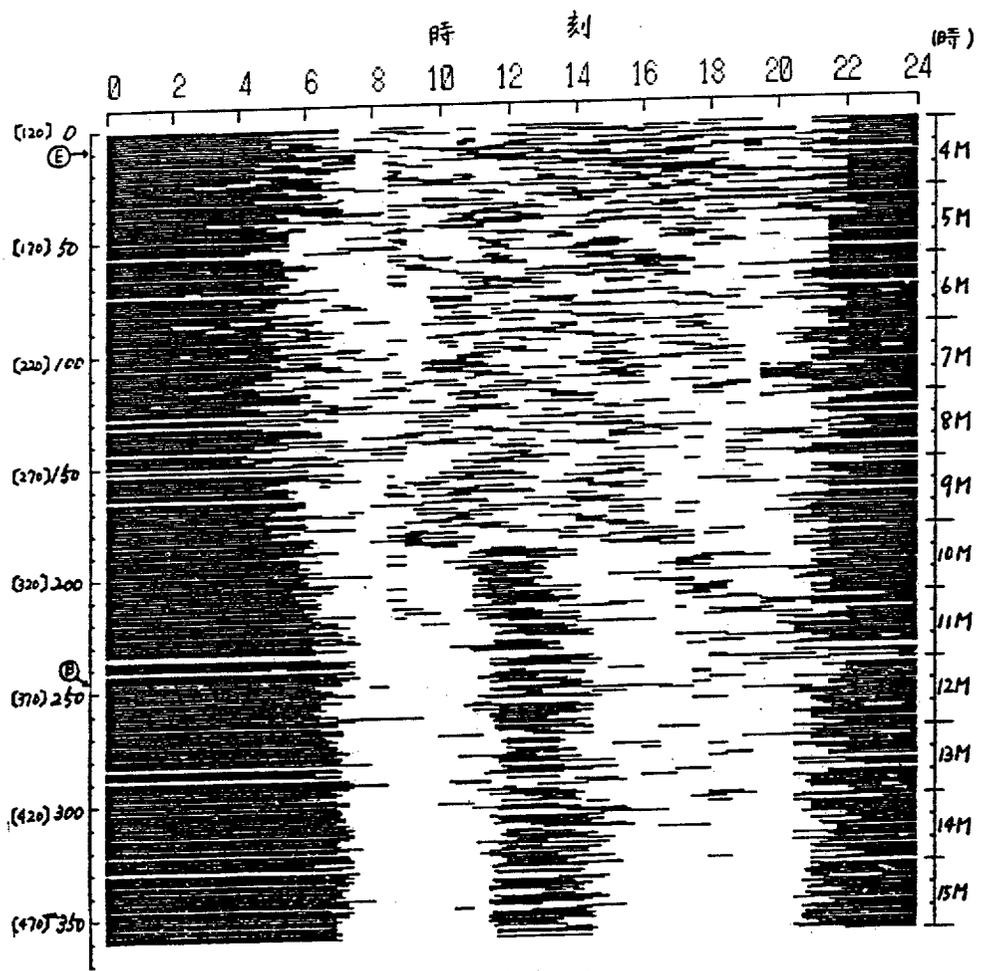
左側の縦軸の数字は記録開始日からの日数、()内は生後日数。

右側の縦軸は 30 日毎の月齢。横軸の数字は時刻。

左側の縦軸中の ⊕ は入園、⊙ は満 1 歳。

横の黒線は睡眠、空白は覚醒を示す。

図 1-a



TUの睡眠・覚醒リズム

図1-b

この1ヶ月間にみられた子どもの行動のなかからつきのそれぞれの質問項目(1~30)について、「はい」「いいえ」「わからない」のいずれかに○をつけてください。

E-A	W	D	A	S-S	R-A
-----	---	---	---	-----	-----

	はい	いいえ	わからない	子どもの名前	生年月日	入居月日
1 好奇心が強くなんでも積極的にやりたがる。						
2 友だちと一緒にあそぶことを楽しむ。						
3 不安なとき保母が抱くと安心する。						
4 甘えて保母のひざに乗ってきたりする。						
5 母親のお迎えが来ると特にうれしがる。 (お迎えがくるとうれしそうにする)				* E-A		
6 表情にとぼしい。						
7 他人の真似をすることに関心がない。						
8 なにもしないでボンヤリしていることが多い。						
9 やればできることでも手を出さない。						
10 見知らぬ人がいると過度に緊張して動きが止まってしまう。				* W		
11 見知らぬ人がいると関心をひくような行動をとる。						
12 見知らぬ人にも平気で話しかけたり身体をくっつけ人見知りしない。						
13 知らない場所でも平気であちこち歩きまわる。						
14 なんでもすぐに触ったりいじくり廻したりする。						
15 テレビを見るとき前で見ないと承知しない。				* D		
16 自分の欲しいものが手に入らないと相手に不平をいったり乱暴する。						
17 遊んでいて突然理由もなく友だちをたたいたり髪の毛をひっぱったりする。						
18 保母が叱ろうとすると逃げる。						
19 感情の変化が激しい。						
20 保母が他の子の前例をみるとすねてみたりその子をたたいたりする。				* A		
21 担当の保母がいなくなると不安定になる。						
22 指しゃぶりしながら眠る。						
23 わずかな音にも強く反応する。						
24 友だちに押されたとか、ささいなことでもよく泣く。						
25 お迎えがこないとひどく気にして不安がる。				* S-S		
26 何事にも注意を集中することができずフラフラしている。						
27 他人の表情や身ぶりの意味をよくとることができない。						
28 まなざしが、ときどきあわない。						
29 ひとつのことに注意をむけることがあっても注意が長つづきしない						
30 年令相応にことばを話したり理解したりできない。				* R-A		

表1-a

保育施設利用月齢

保育園児（3歳）調査

質問番号	平均	S D	人数
1	18. 4 9 5 4	11. 6 6 7 9	4 3 1
2	19. 5 6 0 2	11. 5 0 0 1	1 0 4 7
3	19. 6 0 2 1	11. 5 6 4 6	1 0 0 9
4	18. 0 4 5 5	11. 2 9 6 5	7 2 6 *
5	19. 7 9 7 3	11. 7 8 6 4	7 7 7
6	21. 6 5 5 3	11. 9 7 2 3	1 6 1 *
7	22. 0 4 5 5	11. 6 4 5 2	6 6
8	19. 5 0 0 0	11. 9 9 4 0	1 2 6
9	20. 7 6 9 2	12. 1 7 8 4	1 5 6
10	21. 3 0 4 1	11. 1 8 7 9	9 7
11	16. 2 3 7 9	10. 4 7 3 6	1 4 5 *
12	18. 9 8 6 2	11. 4 3 4 8	2 1 8
13	19. 9 2 2 2	12. 1 0 7 8	2 7 0
14	18. 6 6 7 9	10. 5 8 6 0	1 3 1
15	17. 2 1 5 8	11. 0 0 4 0	9 5
16	17. 9 6 7 9	11. 3 4 8 2	3 2 7 *
17	18. 3 5 7 1	12. 4 0 8 9	4 2
18	17. 2 1 2 3	12. 2 0 5 4	7 3
19	18. 8 0 3 5	11. 8 0 6 1	2 9 0
20	16. 5 5 7 1	10. 8 2 3 1	7 0
21	20. 7 6 9 2	12. 0 8 3 2	1 5 6
22	16. 9 7 5 0	11. 8 3 7 4	1 6 0 *
23	19. 2 5 7 1	11. 5 3 0 0	1 4 0
24	18. 7 3 7 8	11. 3 7 9 0	4 2 9 *
25	19. 4 0 6 1	11. 9 7 5 0	1 8 1
26	21. 7 3 0 8	11. 7 5 4 9	1 1 7
27	26. 6 0 7 1	10. 6 0 6 1	5 6 *
28	21. 3 7 8 0	12. 4 0 0 2	8 2
29	20. 4 0 8 3	11. 6 8 8 3	3 2 7
30	23. 2 7 6 9	12. 2 4 6 4	1 2 1 *
全体	19. 8 4 7 8	11. 5 9 1 6	1 1 9 6
常勤	14. 9 9 4 6	11. 2 8 5 2	4 6 1
自営	21. 8 1 4 3	10. 0 1 3 6	4 2 0

表1-b



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 母子相互作用の基本的特質は、つぎの4点に要約することができる。
 - a. それは、システムである。しかも、母の不在時においても、母の機能が作用しつづけている。これは一般的システムのアナロジイでは理解がむずかしい。ヒトや、ヒトに近い生物にみとめられる認知・情動的システムである。
 - b. リズムである。母と子の認知・情動的経験は、みつめあいのサイクルや、語りかけと新生児の体動のエントレインメント、対話に似たサッキングリズムなど、社会的相互作用的リズムによって構造化されている。
 - c. 母子システムは、より大きい社会的システムにくみこまれている。父親の経済的、情動的サポートの有無、母の社会的地位と役割の変動によるストレス、就労と母性意識とのコンフリクトは、母子システムの安定性に影響する。
 - d. 安定した母子システムは、乳児期のこどもの心の健康な発達の基礎である。安定したアタッチメント関係を発達させたこどもは、環境探索、課題解決、社会的親和、自立と協力、などのコンピテンスの発達が指摘されている。
- こどもの心の発達指導の原則は、この4点にしたがって行うことがのぞましい。